

参考資料2

研究代表者名: 橋 拓至
 所属研究機関: 福井大学
 大学院工学研究科
 研究期間: 平成25年度～平成26年度

ソフトウェア制御と近距離無線通信を利用して 地域の賑わいと安全を創出する多目的情報通信システムの研究開発

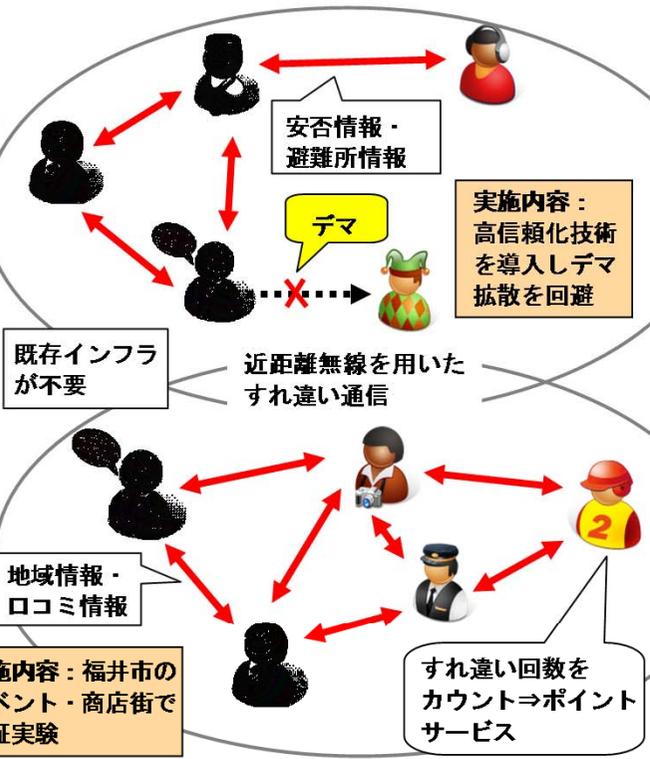
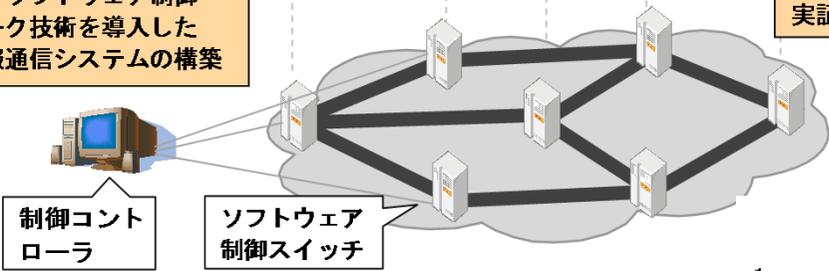
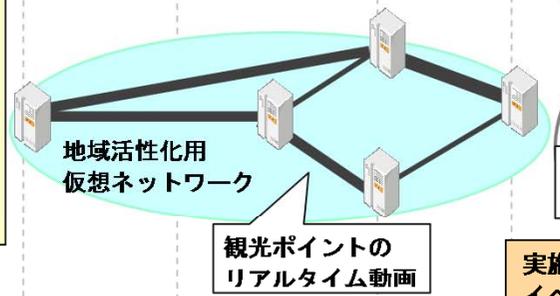
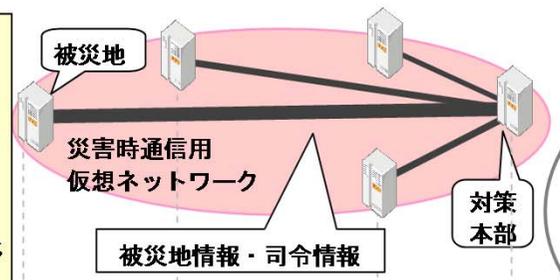
目的
 以下を実現する多目的情報通信システムの研究開発

1. 一つのネットワーク上で地域活性化と災害時通信を同時に実現
2. 公衆無線 LAN 網が整備されていない場所でもユーザ間で情報交換が可能
3. 積極的な街歩きを促して地域を活性化
4. 災害時にも既存網を使わずに情報交換可能

概要 (新規性)

- ・ソフトウェア制御ネットワーク技術を利用して地域活性化と災害時通信を実現
- ・近距離無線通信を用いたすれ違い通信により積極的な街歩きと災害時の情報共有
- ・市内の開催イベント・避難訓練で開発システムの実証実験

実施内容: ソフトウェア制御ネットワーク技術を導入した多目的情報通信システムの構築



災害時情報共有アプリ

災害情報

- 公民館に食糧あり 20xx年xx月xx日 xx時xx分
- 山のふもとで土砂崩れ 国道通行止め注意 20xx年xx月xx日 xx時xx分
- がれき撤去作業開始。有志は郵便局集合 20xx年xx月xx日 xx時xx分
- 体育館ではなく、中学校に避難せよ 20xx年xx月xx日 xx時xx分

実施内容: アプリ開発

ポイントサービス

すれ違い回数 2,452回(今日48回)

獲得済みサービス

- △△ラーメンの餃子1人前無料
- あと34回すれ違うと
- 博物館の入場料が半額になります

地域活性化用アプリ

期待される効果・社会的意義

1. 地域活性化用と災害時通信用のシステムを容易に構築・運用・管理可能
2. 福井県内の街歩きが増え地域が活性化し、観光客も増加
3. 災害時の地域公共ネットワークの強靱化
4. 大規模災害発生時に迅速かつ適切な対応可能、住民にも確実な情報提供
5. 他の自治体でも使用でき、日本全体の活性化・災害時対策の強化